

# 東胆振地域リハビリテーション推進会議 活動報告と今後の方向性

＜実施要綱(案)・指定要綱(案)とからめて＞

東胆振地域リハビリテーション推進会議事務局

本間 啓介

# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## <組織体>

### 会 則

#### 第3章 会員 (会員資格)

第4条 本会は、次の団体、協力医療機関及び市町等をもって構成する

- (1) 団体            (2) 協力医療機関            (3) 市町  
(4) その他、本会の目的に賛同し、理事会で会員になることを認めたもの

#### 第6章 理事会(招集等)

第18条 理事会は、会長が必要に応じて招集し、その議長を務める

5 理事会には参与を置くことができる

参与 苫小牧保健所 所長

北海道地域リハビリテーション協議会構成以外

(社)北海道薬剤師会苫小牧支部
(社)北海道栄養士会苫小牧支部
(社)北海道歯科衛生士会苫小牧支部
日胆地区老人福祉施設協議会
日本介護福祉士会北海道支部日胆地区
苫小牧ケアマネージャー連絡会
白老町ケアマネージャー連絡協議会
東胆振3町介護支援専門員連絡会議

平成18年度会員

1) 団 体	16
2) 協力医療機関	16
3) 市 町	5
4) その他	
計	37

### 指定要綱(案) 第2 指定基準等

1 広域支援センターを指定する場合の基準は、次のとおりとする。

医師会、歯科医師会、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士の会、看護協会など、リハビリテーションに係る専門職種の団体、市町村、保健所及び2の協力病院等により構成される推進会議等の組織体(以下「組織体」という。)であること。

# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

平成18年度 総会

☆補助金終了後に向けた運営体制づくり

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1. 役員任期         | 会則 ⇒ 再任   |
| 2. 専門部会及び部会長・委員 | 会則 ⇒ 再指名  |
| 3. 事務局の指定       | 会則 ⇒ 再指定  |
| 4. 専門部会の任期      | 専門部会 ⇒ 延長 |
| 5. 専門部への協力員     | 設置要領 ⇒ 強化 |

指定要綱(案)

<別表>

ア 総会及び運営委員会等の運営



# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

平成15年度

平成16年度

平成17年度

設  
立

役員改選に向けて予告

<3年任期>

補欠は同じ所属から



平成18年度

平成19年度

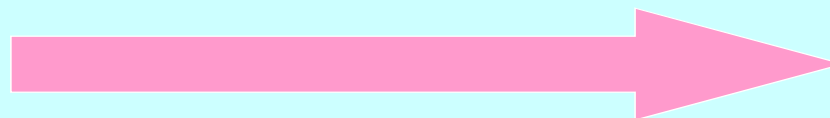
平成20年度

今後の推進会議の検討

今後の推進会議の検討

補助金最終年

補助金なし



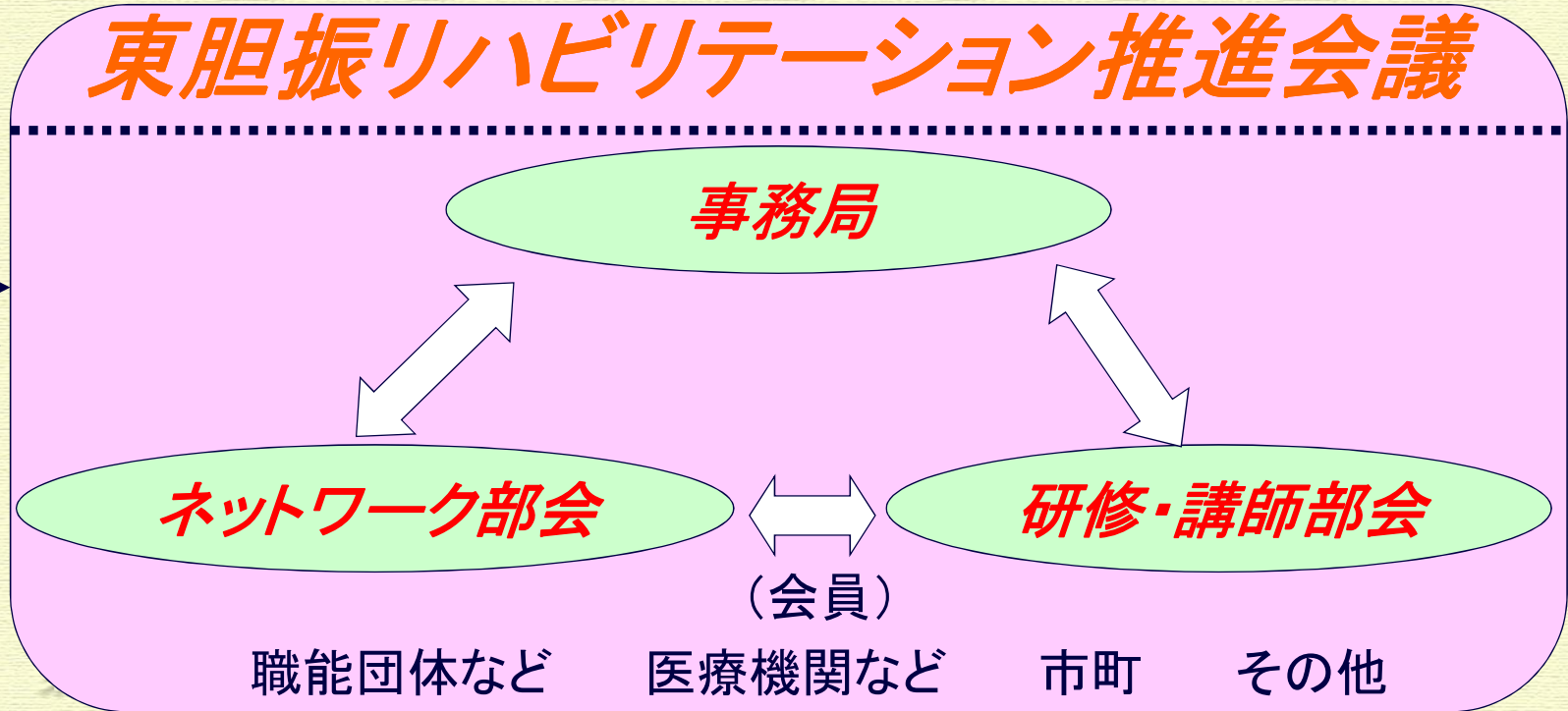


# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## 東胆振リハビリテーション推進会議

保健所

支援  
相談



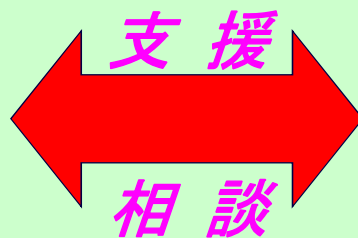
事務局(6名を中心に)・・・苫小牧東病院 PT2名 OT 1名 ST 1名 MSW 1名 介護支援専門員 1名  
(全スタッフ協力)

ネットワーク部会(9名)・・・医師 1名 PT2名 OT1名 ST 1名 MSW 1名 訪看Nr1名  
介護支援専門員 1名 行政 1名(介護保険課)

研修・講師部会(9名)・・・PT 4名 OT 1名 ST 1名 介護支援専門員 1名 介護福祉士 1名  
施設 1名(老健施設協議会)

# 東胆振地域リハビリテーション推進会議 事務局

事務局会議



保健所

事務局長

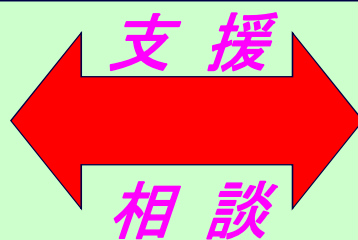
- ・研修、講師部会担当
- ・ネットワーク部会担当
- ・苫小牧リハビリテーション研究会担当
- ・事務局担当

苫小牧東病院

職員



事務局会議



保健所

会議 月1回

内容 年度全体: 1ヵ月間の各部活動

事務局員

+ 保健所担当者職員

+ 地域包括支援センター

運営協議会委員



指定要綱(案) 第2 指定基準等

1-(3) 事務局は協力病院等に置き、  
広域支援センターを所管する道立保健所が  
運営に参画すること



# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## 平成18年度の活動

### 研修・講師部会

#### ○ 研修、講演会

\* 苫小牧リハビリテーション研究会と共催

7月25日

会 場: グランドホテルニュー王子 参加者: 63名

テーマ: 「経頭蓋磁気刺激のリハビリテーションの応用」

講 師: 北大大学院医学研究科リハ医学 教授 生駒 一憲氏

11月21日

会 場: グランドホテルニュー王子 参加者: 336名

テーマ: 「認知ケアをめぐる最近の動向」

講 師: 認知症介護研究・研修センター 研究・研修部長

東北福祉大学 総合福祉学部 教授 加藤 伸司氏

3月15日

会 場: 苫小牧市民会館 小ホール

内 容: 研究発表会

# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## 平成18年度の活動

7月13日

### 第4回研究会

会 場: 苫小牧市民会館 小ホール

テーマ: 「Activity ～明日からできるレクリエーション活動～」

講 師: NPO法人地域リハ実践プロジェクトりらいふ

作業療法士 設楽 美紀氏

参加者: 144名

指定要綱(案) (別表)

オ リハビリテーション関係職員等に対する研修会の開催



## 研究発表会 アンケート (抜粋)

**Q4** 今回の研究発表会に参加して明日からの仕事に役立つと思われることはありましたか？

**Q6** 前回の講演会・研究発表会に参加した方で、実際の仕事に役立ったことはありますか？

第28回研究会、講演[半側空間無翅～診断からリハビリテーションへ～]について、実際の仕事に役立ったこと、参考になったことを具体的に書いてください



# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## 平成18年度の活動

### ○ 講師バンク

登録状況 ・医師 4名 ・作業療法士 4名

・歯科医師 1名 ・言語聴覚士 1名

・理学療法士 10名

計 20名

指定要綱(案) <別表>

### エ 講師バンクの設置・運営

a 医師、歯科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの登録

# 東胆振地域リハビリテーション推進会議 会則

## 第9章 協力医療機関等の責務

(講師登録等)

第23条1. 協力医療機関は、少くとも1名以上を本会のリハビリテーション講師バンクに登録するものとする。

2. 協力医療機関以外の会員も、リハビリテーション講師バンクに登録するよう努めるものとする

3. リハビリテーション講師バンクに登録したものに派遣要請があった場合は、できる限り協力するものとする

### 指定要綱(案) 第2 指定基準等

2 協力病院は、次のいずれかの基準を満たす医療機関で講師バンクの運営に協力するほか、施設及び器財貸与等の面で強力を行うものとする



# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## 平成18年度の活動

### ○ 講師バンク

5月19日 日胆支部苫小牧地区理学療法士会研修 (ST派遣)

「摂食・嚥下基礎講座」

会場: 市民活動センター

参加数: 30名

9月30日 苫小牧市中央地域包括支援センター 介護教室 (PT派遣)

「転倒予防体操と筋力トレーニング」

会場: ケアライフ王子(老健施設)

参加数: 15名 入所者と家族



# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## 平成18年度の活動

### ○ 講師バンク

10月28日 苫小牧市西地域包括支援センター 介護教室 (PT派遣)

「転倒予防、冬場の野外歩行・外出の為の環境整備」

会場: のぞみコミュニティセンター

参加数: 40名 民生委員、町内会役員

高齢者・家族、一般市民

指定要綱(案) (別表)

エ 講師バンクの設置・運営

b 市町村及び介護保険、障がい者福祉等関係機関へのリハビリテーション技術に関する相談支援及び実地指導

c 市町村及び介護保険、障がい者福祉等関係機関等が実施する研修会等への講師派遣

# 東胆振地域リハビリテーション推進会議

## 平成18年度の活動

### ネットワーク部会

#### ○ホームページ

リハビリテーションマップの更新対応中

指定要綱(案) (別表)

ウ 地域におけるリハビリテーションの実態把握と課題分析

#### ○事例検討会

9月22日 会場: 苫小牧保健所 共催 (苫小牧保健所・東胆振精神保健協会)  
テーマ: 高次脳機能障害学習会「事例から障害者の特徴と支援方法を学ぶ」  
参加者: 47名 行政・医療機関・身障療護施設・作業所・職業安定所等

指定要綱(案) (別表)

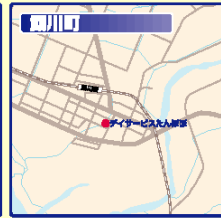
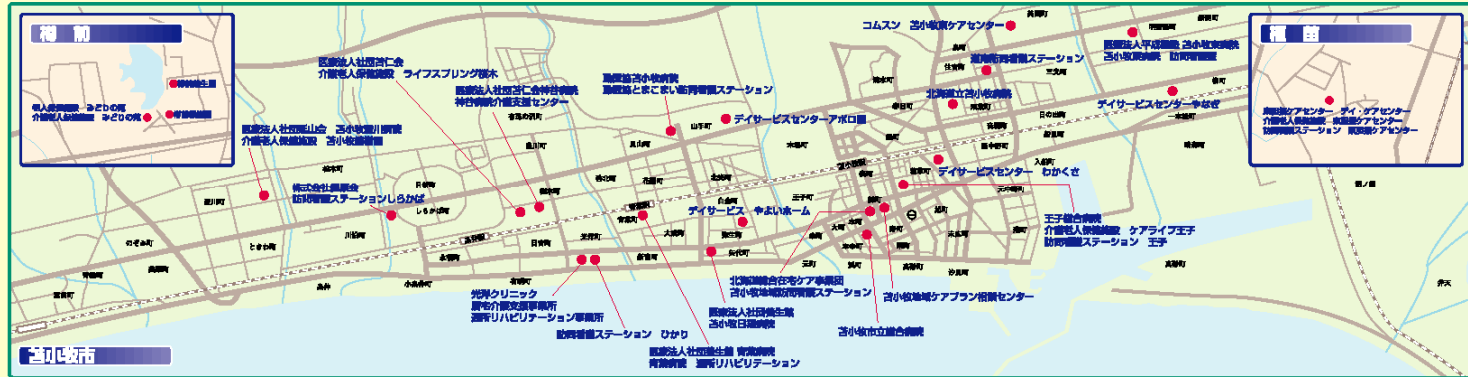
カ その他、地域におけるリハビリテーションの推進に資する事業



東胆振地域リハビリテーション推進会議

リハビリテーションマップ

病院・診療所、老人保健施設、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、通所介護



- 当小東市**
- 老人保健施設 みどり苑(東別荘)
    - 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
    - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
  - デイサービスセンター 藤原正堂(東別荘)
    - 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
    - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
  - デイサービスセンター 藤原正堂(西別荘)
    - 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
    - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
  - 介護老人保健施設 当小東日曜病院
    - 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
    - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
  - 社会福祉法人 当小東日曜病院
    - 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
    - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900

- 光栄クリニック(東別荘)**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立総合病院**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900

- 当小東市立総合病院**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900

- 当小東市立総合病院**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900

- 当小東市立総合病院**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900

- 当小東市立総合病院**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900

- 当小東市立総合病院**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900
- 当小東市立介護老人保健施設**
- 〒014-0201 当小東市みどり町1-1-1
  - TEL.0144-71-2900 FAX.79-2900

このリハビリマップでは簡単に掲載しきれなかった施設のみを掲載しております。今後、発見した施設の情報を増やしていく予定です。掲載の施設に申し込んでリハビリテーションの相談を受けることができる場合があります。お問い合わせ先は各施設にお問い合わせください。

http://www.health-heart-hope.com/rehasuishi/

東胆振地域リハビリテーション推進会議  
2008年4月発行

【効果】

- ・施設、介護保険サービスのリハビリ内容が一覧できる
- ・リハビリサービスの選択が容易になる
- ・サービス間の交流が活発になる



# HIGASHI IBURI REHABILITATION PROMOTION CONFERENCE

## 東胆振リハビリテーション推進会議

TOP ご挨拶 委員 医療機関紹介 ご相談

### 老人保健施設

#### 介護老人保健施設 ケアライフ王子

医療機関名	介護老人保健施設 ケアライフ王子		
所在地	〒053-8506 苫小牧市若草町3丁目4番8号		
TEL/FAX	TEL(0144)36-7111 FAX36-7070		
施設基準	介護保健施設サービス費(・) リハビリテーション機能強化加算(有) 痴呆専門種加算(有)		
入所定員	総 数	100床	一般種 60床
	ショートステイ	5~6床	痴呆専門種 40床
スタッフ構成	医師	1名	PT 1.5名
	支援相談員	2名 (内、社会福祉士 2名)	OT 1名
	看護師	5名	ST 1名
	准看護師	6名	その他 3名
	介護職員	33名 (内、介護福祉士30名) (介護支援専門員10名)	(職種: 管理栄養士、事務職員)
リハビリの状況	実施状況:	(○)専門スタッフが全入所者について実施(集団体操・レク等)	
		(○)専門スタッフが条件付きで実施	
		(条件: 個別リハが必要な方、リハビリ希望者等)	
		(○)専門スタッフ以外の職員が実施	
		(担当職種:介護職員 )	
	(内 容:集団体操 )		
	( )未実施		
	個別リハビリ時間 ・1人週 1~2回 30分 入所者の40名程度実施 集団リハビリ内容・特徴 ・週1回の頻度で、集団体操とレクを施行(午前)⇒能力等を考慮し、レベル分けをして曜日を決めて行っている(15~20名程度) ・一般棟、痴呆棟の曜日を替え、体操を施行(午後)⇒各週1~2回		
相談窓口	支援相談員		
入所までの流れ	相談(相談員)⇒本人・家族面接(訪問・来所)⇒入所前診察(月・木)⇒入所判定会議(木)⇒入所		
関連施設	王子総合病院 訪問看護ステーション王子 在宅介護支援センター王子 居宅介護支援事業所王子		



東胆振リハビリテーション推進会議

- 1 東胆振リハビリテーション推進会議とは?
  - 2 活動内容・活動報告
- 研修講師部会
  - ネットワーク部会
  - 講師派遣(講師バンク)

Link [リンク集はこちら!!](#)

PRINT

# 通所リハビリテーション (5ヶ所)

		青葉病院 通所リハビリセンター	東胆振ケアセンター デイケアセンター	光洋クリニック 通所リハビリテーション	
スタッフ構成	総数(名)	10		20	
	医師(名)	1		1	
	OT(名)		1	2	
	PT(名)	3	1		
	ST(名)		1		
	支援相談員(内、社会福祉士)			4(1)	
	看護師(名)	1	1	1	
	准看護師(名)			2	
	その他(名)	1			
	介護職員(内、介護福祉士)	4	9(3)	10(2)	
特色・概要	サービス提供地域	苫小牧市内	苫小牧市内	苫小牧市内	
	サービス提供時間・曜日	月・火・水・木・金	月・火・水・木・金・土・日	月・火・水・木・金・土	
	祝日	休み	営業	営業	
	定員数(名)	20	40	通所リハ20名、3、4時間通所	
	入浴介助	あり	あり	あり	
	特別浴の対応	あり	なし	なし	
	医療ケアの対応		胃ろう、インシュリン、人工肛門、褥そう在宅酸素対応可。その他は応相	胃ろう、インシュリン等の対応可	
	主なタイムスケジュール	9:00 病院到着 9:20 体操 9:30 入浴/リハビリ 12:00 食事・休憩 13:00 体操/リハビリ 15:00 おやつ 15:30 帰宅	9:15 到着・ミーティング・血圧測定 10:00 入浴・個別リハビリ 物理療 12:00 昼食・休憩 13:30 体操・踊りリハビリ 14:00 レクリエーション 15:30 送迎	9:00 バイタルチェック・集団リハ・個別リハ・ 12:00 食事・休憩 13:30 集団リハ・個別リハ 15:10 送迎開始	
	主な対象疾患		中枢神経疾患、整形疾患	脳血管疾患、神経難病など各種疾患	
	痴呆の受け入れ	あり	あり	あり	
要	年齢層	50歳代		1.70%	
		60歳代	10%	10.90%	
		70歳代	25%	25.10%	
		80歳代	60%	52%	
		90歳代	5%	10.20%	
		100歳代			
	要介護度	要支援	15%	19%	5%
		要介護1	30%	59.80%	45%
		要介護2	45%	13.80%	30%
		要介護3	10%	5.20%	15%
要介護4			2.30%	5%	
リハビリテーションの内容・特色	特色		PT・OTによる総合的な対応	パワーリハあり	
	個別加算	あり	あり	あり	
	個別プログラム	歩行訓練、マッサージ、温熱療法	歩行訓練、機能訓練、言語訓練、等	身体機能訓練、日常生活動作訓練、基本動作訓練、パワーリハビリテーション等	
集団プログラム	レクリエーション、体操、カードゲーム、等	体操、踊りリハビリ、レクリエーション、手芸、等	レクリエーション、頭の体操、各種手芸、将棋、囲碁、等		

(東胆振地域リハビリテーションマップより抜粋 作成17年1月5日)



通所介護 5ヶ所

		デイサービス やよいホーム	デイサービスセンター やなぎ	デイサービスセンター わかかさ	
スタッフ	総数(名)	8	8	8	
	看護師(名)	1	1	1	
	准看護師(名)	1	2	1	
	生活相談員(内、社会福祉士 その他(名))	2	1	1(1)	
	介護職員(内、介護福祉士 その他(名))	4(2)	4(1)	5(2)	
	サービス提供地域	苫小牧市	苫小牧市内	苫小牧市全域	
特色・概要	サービス提供時間・曜日	月、火、水、木、金、土、日	月、火、水、木、金、土	月、火、水、木、金	
	祝日	営業・単独型(6~8)	営業 併設型(4~6)	休み 単独型(6~8)	
	定員数(名)	10	20	20	
	入浴介助	あり	あり	あり	
	特別浴の対応	なし	あり	なし	
	主なタイムスケジュール	8:00 送迎~入浴~食事休憩 16:00 送迎	9:30 施設到着 10:15 アクティビティプログラム 12:00 食事・休憩 13:00 入浴 15:00 帰宅	9:00 施設到着 10:00~12:00 入浴 12:00~14:00 食事、休憩 14:00~15:00 おやつ 16:00 帰宅	
	主な対象疾患		中枢神経疾患等		
	痴呆の受け入れ	あり	あり	あり	
	年齢層	40歳代			1名
		50歳代			
60歳代		16%		1名	
70歳代		22%	17.00%	10%	
80歳代		28%	70%	60%	
90歳代		34%	13.00%	30%	
100歳代					
自立					
要支援			13%	40%	
要介護1		19%	60.00%	60%	
要介護度	要介護2	25%	16.00%		
	要介護3	50%	9.00%		
	要介護4	6%	2.00%	1名	
	要介護5	0%			
	特色				
リハビリテーションの内容・特色	機能訓練加算		あり	あり	
	個別プログラム		歩行訓練、上腕運動、呼吸運動、リズム打ち等	あり	
	集団プログラム		いきいき体操	レクリエーション、手芸、健康体操、咽体操	

(東胆振地域リハビリテーションマップより抜粋 作成17年1月5日)



# 東胆振の医療におけるリハビリ

H17 東胆振地域リハマップ施設概要から

		脳血管障害	整形外科疾患	中枢神経疾患	呼吸器疾患	外科	小児科疾患
急性期	王子総合病院 (急)	←→			←→		
	市立病院 (急)	←→				←→	←→
	勤医協病院 (急~回~在宅)		←→		←→		
回復期	日翔病院 (急~回~在宅)	←→					
	青葉病院 (回復~在宅)		←→			←→	
	苫小牧東病院 (回復~在宅)	←→					
	神谷病院 (回復~維持)	←→			←→		
維持期	光洋クリニック (回~在宅)	←→					
	追分菊地病院	←→					
	澄川病院 (維持)		←→				
	北海道リハセンター (長期)	←→					
	生田医院 (在宅)		←→				
	道立苫小牧病院 (急~維持)				←→		

## ネットワーク部会

### ○地域懇談会

《テーマ》介護予防プログラムの導入後、半年後の現場における状況と成果、課題把握と解決に向けた取り組みについて、実際に携わる関係職員を対象に懇談会を開催する

9月20日 通所リハ事業所

会場：市民活動センター

参加事業所：8事業所(11事業所中)

23名(PT・OT・Nr・介護職員等)

9月27日 訪問リハ事業所

会場：市民活動センター

参加事業所：9事業所(15事業所中)

17名(PT・OT・ST・Nr等)

☆訪問リハ・通所リハを行う各事業所が今後の連携と活動の足掛りとなるきっかけづくり

指定要綱(案) (別表)

イ 関係団体・関係機関等のリハビリテーション関係者によるネットワーク構築



# 平成18年度 東胆振地域リハビリテーション推進会議 整理表 (18. 4~18. 12)

	目的	目標	事業	具体的な取り組み	事業の目的	結果		今後の方向性
①	急性期から維持期までのリハビリテーションの充実	急性期、回復期、維持期で関わっているスタッフがお互いの役割を認識し、スムーズな連携が取れるようになる	地域のリハビリテーションネットワークの構築	事例検討会	高次脳機能障害の学習会に共催。急性期から在宅、施設等の幅広い職種・事業所との学習会	開催数・参加人数	1回・47名	保健所と協力し事例検討会の実施を検討。
		維持期リハを担う介護職が具体的な技術を習得できる	リハビリテーションに関する研修	実技研修会	現場で働く各職種の方が明日から使えるもの	評価	各関係機関が役割を持って互いにつながることが重要であることがわかった。	
②	ネットワークを構築する	地域リハ関係者が東胆振の社会資源、人材資源を知り、それぞれが何をしているかわかる	地域のリハビリテーションネットワークの構築	部会の開催	各職種部員より、地域に必要とされているものの検証・検討	開催数	ネットワーク部会3回、研修講師部会3回、合同部会2回、(事務局会議等10回)	部会の形式は維持(事務局、ネットワーク部会、研修講師部会)。今後は協力員の活用など柔軟な対応も検討。
				地域リハマップ、HPの更新	リハ資源の情報を積極的に発信することで役割を再認識	更新頻度	年1回(地域リハ施設概要を掲載)	
				地域懇談会	介護予防プログラムの導入に伴う現況調査、情報交換	開催数	2回(通所リハ23名、訪問リハ17名)	各団体や責任者と方向性(自主的な連絡会にする等)を検討し継続。
						評価	平成18年度制度改正に伴い更新中	
						評価	情報交換の場としては有効。	



# 平成18年度 東胆振地域リハビリテーション推進会議 整理表 (18.4~18.12)

	目的	目標	事業	具体的な取り組み	事業の目的	結果		今後の方向性
③	地域リハビリテーションにかかわる人々の資質向上及び技術の向上	職種を問わず多くの関係者が参加し、地域全体の学習の機会を確保することができる	リハビリテーションに関する研修 リハビリテーション講師バンクの設置、運営	苦小牧リハビリテーション研究会と連携し研修会を開催	・苦小牧リハ研究会は道内外から著明な講師を招き開催 ・推進会議では受講生が参加できる形態	開催数・参加人数	年3回	苦小牧リハビリテーション研究会との共催は継続
				講師バンクの運営、派遣	地域のリハビリテーション知識・技術の向上の為に、専門職の講師が必要な講演会・研修会を開催	評価	毎回多くの参加者から好評をいただいている	
						登録者数	20名	派遣回数
		評価	・講習会での質疑応答が活発 ・依頼者、講師ともに好評					
④	誰もが安心していきいきと楽しく暮らせる街づくり	地域の介護予防事業が効果的に実施される	地域リハビリテーションから街づくりへの提言	地域包括支援センター運営協議会への参画	介護予防事業の現状把握・支援	出席回数	4回	今後も運営協議会へ参加継続。地域リハの立場から提案等を行う。
						評価	包括支援センターの事務内容の把握が出来た	
⑤	その他	地域の資源と連携し、地域リハビリテーションの普及啓発を図る	地域リハビリテーション実施機関に対する支援	精神保健協会との連携	情報提供、情報開示、事業の共催	評価	双方とも連携体制について了解	今後も継続
				学習会の開催(高次脳機能障害)	関係機関及び一般住民の普及啓蒙活動。課題を明らかにし、検討する場を設ける	開催回数	1回	保健所と協力し、継続して取り組む
						評価	高次脳機能障害の基礎を学び、各関係機関が具体的支援方法について検討できた。	

# 平成18年度の活動展開

- 1 大きな体制の変化なく継続してきた中で、質的なものの変化・充実がみられる。
- 2 研修・講師バンク派遣・地域懇談会において、具体的な成果に結びつくことを意識し展開した。
- 3 部会・合同部会の検討や活動を通し、「継続すべきこと」、「新たに取り組むこと」、「見直しが必要なこと」、「取り組む必要が低いこと」など整理を進めている。
- 4 推進会議だけで進めていこうとするのではなく、「地域のほかの活動と合同で行う」、「地域の機関と協力しながら行う」、さらに「他の取り組みがなく、推進会議できっかけづくりが必要であると判断し取り組む」などしている。



## 今後の展開について

- 1 今までの活動も含め「地域リハ」の広い概念のもと、いろいろなことに広げていけるが、もう少し、ポイントを絞った活動にしていく方がよいのでは。

地域に根付く活動として事例検討会など定例化し、積み上げていくことも1つの方法。

- 2 さらに、「継続すべきこと」、「新たに取り組むこと」、「見直しが必要なこと」、「取り組む必要が低いこと」など検討し、整理する。

補助金がなくなることと合わせて、推進会議の周辺状況のことも視野に入れ、1年かけて検討する。



## 今後の展開について

- 3 推進会議だけで進めていこうとするのではなく、「地域のほかの活動と合同で行う」、「地域の機関と協力しながら行う」、さらに「他の取り組みがなく、推進会議で必要性があると判断し取り組む」など、整理が必要。

地域の活動、関係機関の取り組みの情報収集・交換を行い連携をはかる。

- 4 市町の行政の範囲を越えて、人と人と地域の中で、リハビリテーションの視点にたった連携が必要。

二次医療圏の中で（市のみでなく）、資源の有効活用し合う、広がりを持たせた展開が必要。

